

集落営農の組織化と活動の高度化支援

要約

担い手の減少・高齢化が進み農地の維持が困難な集落が増えている。このような集落に対し、集落営農組織の立ち上げを推進するために、集落リーダーの育成と集落での合意形成支援を行った。また、既存集落営農組織への法人化・人・農地プラン位置づけ・新規品目導入支援を行った。

現状(背景)と課題

- ・〔現状〕 農業担い手の減少・高齢化により農地の維持が困難な集落が増加。
- ・〔課題〕 集落のみなで力を合わせて農地と農業を守る集落営農組織の新規設立と活動高度化の支援。

目標

- ・新規立上げ集落営農組織数
：4組織
- ・既存集落営農が取り組む新たな組織活動数
：6組織

活動内容

- ・集落営農新規設立候補集落のリーダーおよび既存集落営農のリーダーとの話し合い・集落座談会など集落への支援：計35回実施(3カ年)
- ・法人化への支援：法人形態、設立手順、届け出、設立後の活用できる事業等を説明。
- ・集落の耕作放棄地を組織で再生する仕組みづくりを支援、補助事業の活用。
- ・人・農地プランへの集落営農組織の位置づけへ集落での話し合い：3回。水稻の共同作業化、新規品目(ジャガイロ)作付け計画の支援及び補助事業の活用。

3年間の成果

- 新規に集落営農組合を組織化：4組合（勝原集落営農組合・深野集落営農クラブ・営農組合アイトレリーズ 大神の郷集落営農組合）。
- 既存集落営農組織への新たな活動を支援：4組織
 - 組織の法人化（農事組合法人ほたるの郷 御杖村H26年）
 - 組織で耕作放棄地の再生に向けた取り組み（みた農地環境管理クラブ 宇陀市）
 - 人・農地プランへの中心となる経営体への位置づけ。新規品目導入支援（平井集落営農組合 宇陀市）
 - 人・農地プランへの中心となる経営体への位置づけ。水稻共同作業（大神の郷集落営農組合 宇陀市）



集落リーダーと集落アンケート結果について話し合いH26年
(宇陀市内の集落)



耕作放棄地を再生し、黒大豆を栽培
(平井集落営農組合)



人・農地プラン集落説明会
(曾爾村 掛集落H26年)

農業普及課
担当：農業指導係 木矢・山本
地域担い手確保支援事業
担い手育成緊急支援事業

普及活動のポイント

- ・県主催の集落営農塾を通じて集落営農に対する理解が深まり、新規集落営農設立候補の掘り起こしができた。
- ・法人化に向けて経営展望を話し合い、規模拡大に向けた事業活用を協議、決定。
- ・積極的なリーダー主導のもと、集落の耕作放棄地の再生のための補助事業を紹介、活用支援。
- ・個別農家の担い手のいない地域で今後の農地をどうするのかの話し合い→人・農地プランへ集落営農の位置づけへ誘導。新たな品目の取り組みへの補助事業の紹介、実施。

対象の変化

- ・大神の郷集落営農組合と平井集落営農組合は水稻の共同刈り取り作業を実施。人・農地プランの中心となる経営体に位置づけられた。

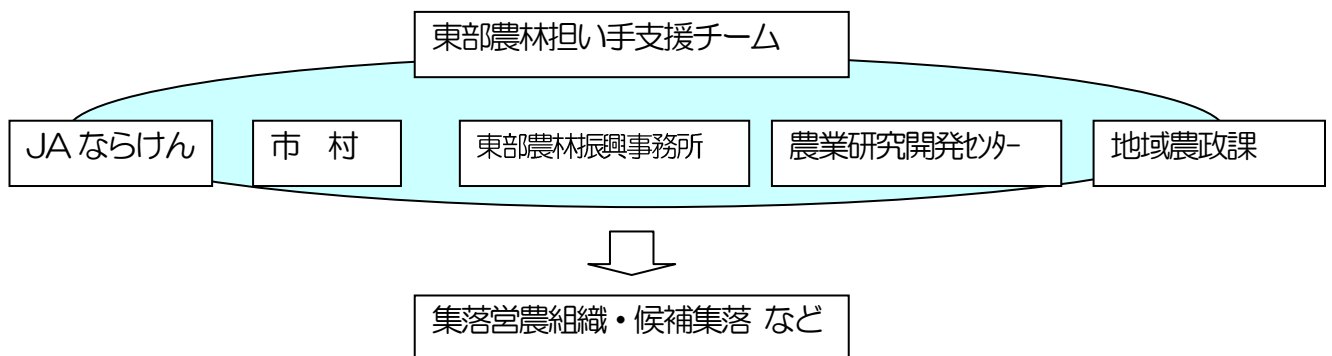
対象者からのコメント

- ・営農・担い手に関するアンケート実施に協力してもらい、集落の意向が把握できました(組織化を目指す集落のリーダー)。

これからの活動ビジョン

- ・今後の組織立ち上げが期待できる集落に対し、引き続き視察や集落営農塾への誘導を行う。また、活用出来る事業を紹介する。このような啓発活動を通じて、集落内の合意形成やリーダー育成を支援する。
- ・継続して、人・農地プランへの位置づけ、法人化を図る。
- ・農地中間管理機構(なら担い手・農地サポートセンター)の活用推進

活動体制



用語解説

中間管理機構 (なら担い手・農地サポートセンター)

農用地等を貸したいという農家(出し手)から農用地等の有効利用や農業経営の効率化を進める担い手(受け手)へ農用地利用の集積・集約化を進めるため、農用地等の中間的受け皿となる組織です。

農地中間管理機構は、借り受けを希望する担い手を公募し、「人・農地プラン」に十分配慮のうえ、これら担い手等に農地を集約化して貸し付けることを目的に整備されました。